

様式 A 実践英語 II (長井(克))

科目にかかわる情報				
科目の 基本 情報	授業科目 (欧文)	実践英語 II Practical English II		単位 2
	一般・専門の別・ 学習の分野	一般・外国語	授業形態・学期	講義・前期
	対象学生	MS-2・EC-2	必修・選択必修・ 選択の別	選択
教員に かかわ る情報	担当教員・所属	長井克己・一般科目		
	研究室等の連絡先	研究室：長井(克) 管理・一般科目棟2階 (内線：8188) E-mail：kats@tsuyama-ct.ac.jp		
科目の 学習・ 教育内 容にか かわる 情報	基礎となる学問分野	言語学/ 英語学・外国語教育	学習・教育目標	F (F-3)
	授業の概要	本校での英語学習の総まとめとして、英語で書かれた文法書を読み、日本語の参考書では分かりにくい事項を学習していく。それにより専攻科修了後に必要となる英語によるコミュニケーション能力の基礎を確かなものとする。		
	学習目的	基本的な英文の理解と応答に支障がなく、ともかく自己の意思を伝えられる程度(TOEIC 470-550)を目指す。		
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語で書かれた文書を正確に読むことができる。また、見落としやすい語法の誤りや意味の違いをを正しく理解する。 2. 自分の意見を誤りの少ない英語で書くことができる。 		
履修に かかわ る情報 と履修 のアド バイス	履修上の注意	なし		
	技術者教育プログラ ムとの関連	本科目が主体とする学習・教育目標は「(F) コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の育成：F-3. 技術者に必須の外国語である英語でコミュニケーションができること」である。		
	履修のアドバイス	1年の時に実践英語 I を取っていないなくても構わない。		
基礎・ 関連科 目にか かわる 情報	基礎科目	英語 IA (1年), 英語 IB (1) 英語 IIA (2年), 英語 IIB (2), 英語 III (3), 創造英語 (4), 選択英語 I (4), 選択英語 II (5) など		
	関連科目	実践英語 I(専攻科1年), 技術英語購読 (1)		

授業にかかわる情報		
授業の方法	1 週 2 単位時間マルチメディア室で授業を行う。教科書は大部であるので、日本語を母語とする学習者が英語で発表をしたり論文を書いたりする際に間違いやすい項目を取り上げ、集中的に練習する。文法中心の授業であるが、リスニングやスピーキングなどの音声面の練習も適宜行う。	
授業計画	開講週	内容 [項目] (指示事項)
	1 週	ガイダンス/ am doing [Present continuous and present simple 1/2] (Units 3 / 4)
	2 週	have done and I did [Present perfect and past 1/2] (Units 13 / 14)
	3 週	had done / had been doing [Past perfect and its continuous] (Units 15 / 16)
	4 週	am doing / I'm going to [Present tenses] (Units 19 / 20)
	5 週	will / shall [future] (Units 21 / 22)
	6 週	will / be going to / will be doing [future] (Units 23 / 24)
	7 週	a / ...s [Countable and uncountable] (Units 70 / 71)
	8 週	a / some [nouns] (Units 72 / 73)
	9 週	a / the [articles] (Units 74 / 75)
	10 週	the / plural [nouns] (Units 76 / 79)
	11 週	boring / bored / rather [adjectives] (Units 98 / 104)
	12 週	place and time [word order] (Units 109 / 110)
	13 週	unless / as long as / for / during / while [conjunctions] (Units 115 / 119)
	14 週	筆記試験 (教科書の Exercises から出題する)
15 週	筆記試験の返却と解説・まとめ	
教科書, 教材等	教科書: Murphy, R. (2004) <i>English grammar in use with answers</i> . Cambridge University Press ISBN 0-521-53289-2 辞書はマルチメディア室の Bookshelf が利用できる。	
成績評価方法	毎週の演習のためのレポート提出を 30%, 筆記試験を 70%とし、合計により評価する。筆記試験では持込一切不可。	
受講上のアドバイス	英語で文献を読み、英語で論文 (あるいはアブストラクト) を書いたら、次はそれを英語で発表できるのが「できるエンジニア」である。言語の本質は「聞き」「話す」ことであるので、TOEIC の教材などを利用して各自で学習して欲しい。	